第5回 総会を開催

全国防草ブロック工業会（会長＝矢野明正氏）は7月1日，アパホテル名古屋錦（名古屋市中区）で第５回総会を開催した。総会では平成27年度活動報告・会計報告，平成28年度活動方針・予算案を原案通り可決承認した。任期満了に伴う役員改選では矢野明正会長をはじめ全役員の再任を決めた。

「4つ星環境製品」をPR

全国防草ブロック工業会　昨年度実績18・5％増

矢野会長

総会開催にあたり挨拶した矢野会長は「コンクリート製品業界は厳しい経営環境が続いている。セメントメーカーによると、平成27年度のコンクリート製品工場向けセメント納入量は平成26年度比で約12％ダウンしたそうだ。このような中で、当工業会の運営に協力頂いていることに感謝したい」と会員各社に謝意を示した。

さらに防草ブロックが今年2月に愛知環境賞（銅賞、愛知県）、3月に発明大賞（本賞、日本発明振興協会）を受賞し、平成25年の環境賞（優良賞、日立環境財団）、平成26年の国土技術開発賞（入賞、国土技術開発センター）と合わせて4つの賞を受賞したことを報告した。各賞により評価基準は異なるが経済効果とCO2削減は4賞に共通した受賞理由で、防草ブロックは今の時代に最も必要な技術・環境製品という評価を得たと言える。

矢野会長は「いずれの賞も日本航空や鹿島建設、トヨタなど日本を代表するグローバル企業と共に受賞したもので、そう簡単に受賞できるものではない。当工業会の製品と技術が国土と環境分野の有識者や官公庁、大学、研究機関により評価された意義はコンクリート製品業界にとっても極めて大きい。

しかし残念ながら、これほど大きな4つの賞を受賞したにも関わらず、その価値の大きさが当社を含め工業会の中で未だに十分理解されていないように感じる。これほどの受賞歴を有するコンクリート製品は他には存在しない。その価値を我々が正しく理解し、自信を持ってお客様に伝えることができなければ受賞の価値は半減してしまう。そのような観点から、受賞内容をまとめたPR資料を新たに作成した。お客様にも一目で理解して頂けるように、分かりやすい内容とすることを心掛けた。非常に効果的な資料なので是非、販促ツールとして活用し、防草ブロックが高い評価を受けた優れた製品であることをPRして欲しい」と述べた。

議案審議は矢野会長を議長に選任して進められ、平成27年度活動報告・会計報告、平成28年度活動方針・予算案を原案通り可決承認した。任期満了に伴う役員改選では、矢野明正会長をはじめ全役員の再任を決めた。

今期は製品技術のプレゼン発表や展示会イベントへの出展、新規会員増強、工業会ホームページ制作、防草ブロックサンプル模型制作、新技術コンテスト応募などに取り組む計画。展示会では国際フロンティア産業メッセ2016やナゴヤメッセ2016への出展を予定している。またホームページは、広く防草ブロックをPRすることを狙いに一般市民にも理解しやすい内容とする計画。同工業会には賛助会員として日本ワイドクロス（大阪府）が新たに入会し、会員社数は43社（正会員36社、賛助会員7社）となった。

昨年度の防草ブロックの施工延長は193件32㎞（前年度比18・5％増）で中部、関東、東北をはじめ沖縄や信越地方でも施工実績が伸びている。

●第2部

防草研究会の石川重規氏による「防草ブロックのあれこれ」と題するプレゼンテーション、日本ワイドクロスの山本仁志部長による自社開発製品の紹介、名古屋大学大学院の北野英己教授による「農業と雑草」をテーマに講演が行われた。

【防草ブロックのあれこれ】石川氏は「防草ブロックは植物の屈光性（芽は下向きには伸びない）を利用した技術で、ブロックに設けた独自の防草形状により雑草自身が

jWBA ★★★★
植物の特性を利用した環境製品
The All-Japan Weed Control Block Manufacturers Association.

全国防草ブロック工業会のロゴマーク。英文名の頭文字と受賞した４つの賞を「４つ星」としてデザインした。

成長を抑制する。植物本来の性質を利用しているため、仮に目地部に隙間が生じても防草効果は継続する。そのため、施工時に防草形状を変形させないことが重要だ」と述べ、実際の施工者に正しく施工法を伝えるよう会員社に注意を促した。

また現在、各自治体や研究機関により行われている防草ブロックの技術検証について紹介した。防草ブロックに関して実施中のフィールド試験は次の通り（カッコ内は実施機関、期間、場所の順）。

▽道路防草対策フィールド試験（沖縄総合事務局、平成24年11月～同27年10月・検証終了、国道58号宜野湾バイパス中央分離帯）▽アスファルト廃材による試験盛土外作業（寒地土木研究所、平成27年～経過観察中、寒地研究所フィールド内）▽京都にふさわしい防草対策試験（京都市役所、平成28年1月～経過観察中、京都市左京区一般道）▽道路雑草抑制に関する新技術（関東地方整備局、平成28年5月～経過観察中、群馬県一般国道）。

その上で石川氏は「このような技術検証は次世代へ向けた環境製品だからこそ実施が可能で茨城、福岡、兵庫、群馬の各県で技術登録されている。そして当工業会には、新たに防草シートメーカーの日本ワイドクロス社が入会した。ブロック、グレーチング、シートの防草製品が3本の矢となり会員各社の営業力、組織作り、全国防草ブロック工業会の発展が加速することを期待している」と述べた。

八戸管内道路保全工事（NEXCOメンテナンス）

恩納南交差点改良工事（沖縄南部国道事務所）

道路改良工事419号（愛知県知立建設事務所）

【日本ワイドクロス】環境・農業・土木用資材など開発製品の説明や、国内外の自社生産工場の紹介などを行った。同社は農林水産向け製品では国内トップシェアを誇り、新たな防草製品の販売開始は、同工業会会員社にとっても商機の拡大が期待できそうだ。

【講演会】名古屋大学大学院の北野英己教授は「防草ブロックは実証実験データを基に開発した技術で理屈が通っている。それは逆に言うと、理屈通りに正しく施工しないと問題が起きる可能性があるという事でもある。自然は相手に取って不足のない魅力のある存在だ。防草ブロック技術の普及拡大は、我々が抱えている環境問題に応える事にもつながるので、恐れることなく頑張って欲しい。

農業の主役は農家だけでなく、いろいろな分野から新しい技術や考え方を持ち込むことで新たな再生が起きる。ICT技術を導入して若い人たちが参入しやすくなる環境整備も進められている。防草ブロックに、どのような新しい考え方や異分野の技術が持ち込めるのか考えることも意味がある。

先ほど、日本ワイドクロス社が取り扱う防草シートについて紹介があった。防草シートは農業の分野でメインに取り扱ってきた商品だが、防草ブロックの技術革新につながる可能性があるのではないか。例えば中央分離帯の縁はコンクリートで固めているが、内側は何も対策を講じていないので、放っておくと雑草で覆い尽くされてしまう。防草シートを道路用に利用することもできるし、防草ブロックとのコラボ技術が誕生する可能性もあるのではないか。

農業の分野では、食料の安全かつ安定的な確保が大きな課題だ。ここで留意すべきことは、日本は人口が増えるのではなく、減少する時代に入ったということだ。

日本創成会議が2040年の「若年女性人口地図」を公表している。20～39歳の若年女性が、その地域にどれだけ住んでいるのかを予測した地図だが、若年女性が安定的に居ることを示す『緑』は縮尺を市町村単位に拡大しないと現れない程少子高齢化の問題は深刻だ。その中で、例えば農業と関わりが深い八郎潟町は緑で表示されているが、ここでは若い人を迎え入れて農業を発展させるための様々な施策を行っている。人口が減少していく中で、どうしたら街や産業、あるいは事業を活性化することができるのか。そこにはグローバルな視点による発想が不可欠だ。

防草ブロックは中国や東南アジアでの展開を考えても良いのではないか。そのためには当然、現地で何が起きているのか、充分にリサーチを行い、そこに防草ブロックの技術がどう使えるのか、今から検討していくことが非常に重要だ。

近年は農業の研究に関して工学部や文学部の研究者と話す機会が増えている。一見、関係なさそうな分野でも、話を聞くうちに非常に良いアイデアが生まれてくる事がある。皆さんも新しい流れを作ることに挑戦して欲しい。全国防草ブロック工業会の会員社は非常に多いので、その成果は大きなものが期待できるはずだ」と述べた。